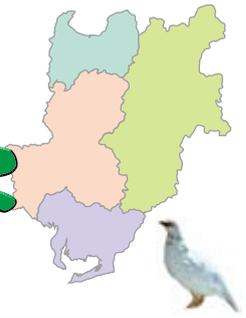




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>



世界に一つだけの作品 除伐木で木エクラフトに挑戦

(P6に関連記事)

<p>主な項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボランティア活動と森林・希少種保護活動 P 2～3 ○ 各地からのたより P 4～5 ○ 除伐木で「世界に一つだけ」の作品 P 6
-------------	---



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

**ボランティア活動と
森林・希少種保護活動**

夜叉ヶ池で協議会が設立

【岐阜署】十一月八日、岐阜県揖斐郡揖斐川町役場において岐阜県側の夜叉ヶ池一帯の豊かな自然環境を保護し、後世に残してゆくためにボランティアを中心としたパトロール活動を円滑に進めることを目的に「夜叉ヶ池ボランティアパトロール岐阜県連運協賛協議会」の設立総会が開催されました。

総会には(社)日本山岳会岐阜支部、岐阜県山岳連盟、岐阜県、揖斐川町など十七名が出席し議事が進められた。議事では協議会名称・規約などの承認、これまでの活動報告、活動方針、予算、今後の計画などが話し合われました。



運営協議会の会議の様子

総括質疑の中では「看板の素材」や「古い施設の撤去」、「トイレの設置」など多くの意見が出され、今後協議会のなかで対応することとなりました。

今後はこの協議会を中心に福井県側との連携強化が図られることとなります。

**ボランティア団体主導型で開催
「グリーンボランティア・サミット」**

【指導普及課】十月十九〜二十日、岐阜県中津川市加子母において管内の国有林・民有林で活動している森林ボランティア十一団体(三十五名)及び局署等職員(二十二名)が一堂に会し「グリーンボランティア・サミット」を開催しました。

このサミットは、各ボランティア団体の活動状況や意見交換等を実施するなかで、お互いの資質の向上を図り、国民参加の森林づくりの一層の推進を図ることを目指したものです。

一日目は、あいにくの雨模様となりましたが、「ふれあいのやかたかしも(研修交流施設)」において各団体・各署等の参加者全員による活動報告に引き続き、「森林づくり部会」、「森林環境教育部会」に分かれての活発な意見交換が行われました。

二日目は、地元地域の歴史やふれあいの森などのボランティアでの森林づくりの活動現場で交流を深めることができ、有意義な二日間のサミットを終了しました。



グリーンボランティア・サミットの様子

た。

また、これまでは局等が主導のサミットでしたが、今回は、ボランティア団体主導の開催であり、特に実行委員会及び開催地の「裏木曾古事の森育成協議会」メンバーの皆様にはチーフスタッフとして活躍頂き感謝申し上げます。来年度以降も引き続きボランティア団体の交流・支援を図っていきたくと考えています。

**「巨木を語ろう全国フォーラム」
〜飛騨高山で開催〜**

【飛騨署】十一月十一日に、高山市一之宮町で「第二〇回巨木を語ろう全国フォーラム」が「全国巨樹・巨木林の会」主催、林野庁、環境省、文化庁、岐阜県、高山市が後援するなか、地元NPO法人「ひだ位山ふるさと学校」の共催により開催され、全国から二五〇名の環境保全活動に係わる参加者があり、当署

も森の巨人たち百選のパネル展示、宮国有林の「大イチイ」の案内等で協力しました。

初日のフォーラムでは、「ツリークライミングを通じて巨木と人とのふれあい」と題してツリークライミングジャパン副代表の川尻秀樹氏の実演を交えた講演の他、巨木保全活動事例発表、市民による飛騨高山・巨木しらべ報告が行われました。

事例発表では、当署管内の森の巨人たち百選に選ばれた平湯大ネズコなどの保全活動に取り組んでいる平湯巨樹巨木保全協議会のほか、莊川の巨木を守る会、NPO法人ひだ位山ふるさと学校がそれぞれ、「巨木を守ることが地域の文化につながる」など活動の経緯、巨樹・巨木の保全の大切さを発表されました。

二日目は、巨樹巨木トレッキングツアーが三コースに分かれて行われ、宮国有林で行われた源流の森・宮大イチイとツリークライミングコースには二十名の参加者があり、樹齢二一〇年の天然性優良アカマツ林の林木遺伝資源保存林や森の巨人たち百選に選ばれた「宮の大イチイ」(樹齢二〇〇〇年、樹高二十五メートル、幹周六・九メートル)を山下宮森林官と川本尾神森林官が案内し、参加者はアカマツ林の風景や宮の大イチイの二〇〇〇年生きている姿に感動していました。

また、サワグルミの大木を利用しているツリークライミング体験では、始めは高



ツリークライミングを体験

いところは怖いと言っていた参加者達も次第に楽しそうにザイルを操り一〇メートル以上の高さまで登り、木とのふれあいを楽しんでいます。

なお、市民の調べでは幹周り三メートル以上の巨木を調査した結果、高山市が全国で第二位（一位は奥多摩町）といった報告もあり、新聞でも大きく取り上げられました。

次回は、秋田県角館で開催されます。

地域一体で取り組む有害鳥獣対策 （ニホンジカの一斉捕獲作戦開始）

一斉捕獲作戦開始

〔南信署〕伊那谷流域における最重要課題である野生鳥獣害対策として、十二月一日黒河内国有林に隣接する伊那市の入笠牧場で、ニホンジカの一斉捕獲作戦が行われました。

これは、南信森林管理署、県、市町村等上伊那地域の関係機関で組織する野生鳥獣保護管理対策協議会が地域の猟友会の協力を得て実施したもので、当日は、

早朝から猟友会員二三名が参加し、牧場周辺に生息するニホンジカの群れを猟犬で追い込むなどして三十二頭を捕獲しました。

この捕獲作戦には、同協議会の構成団体も捕獲したニホンジカの回収作業に協力しており、当署からは上原業務第二課長や井元伊那森林官ら五人の職員が参加しました。

また、当日は、林政協議会伊那谷部会による、一斉捕獲や解体処理の現地視察も行われ、同協議会メンバーである久保田南信森林管理署長や藤原伊那谷総合治山事業所長も回収作業に参加し、栄養豊かな牧草などを沢山食べて大きく育ったニホンジカの運搬に汗を流していました。

今年度の上伊那地域における一斉捕獲は、二〇〇頭の捕獲目標を掲げ、一月下旬までに浦国有林や四徳国有林を含む地域で計三回予定されており、当署としても、特定鳥獣保護管理計画に基づくニホンジカの個体数調整が確実に実施されるよう全面的に協力することとしています。



捕獲したニホンジカ

民・国連携低コスト作業に向けて ～民有林と連携して検討会～

〔飛騨署〕十一月八日に、高山市荘川町にある国有林及び民有林で、国有林が取り組む低コスト高効率のモデル事業と岐阜県が取り組む健全で豊かな森林づくりプロジェクトの取り組みについて、民国連携の現地検討会を岐阜県飛騨農林事務所と共催し、県下各農林事務所、高山市、飛騨市、各森林組合、林業経営者協会、当署職員の外森林文化アカデミーなど三十名が参加しました。

午前中は、山中山国有林で「低コスト・高効率作業システム」のモデル箇所を見学し、説明にあたった飯村森林官からは四万十方式を基本とした路網整備について、企画、路線決定、オペレーター育成及び請負事業者の取り組み姿勢が重要といった説明や、いかに山と向き合うかが大切と言った話が出され、参加者からは、四万十方式の技術的なこと、この冬の雪で路網が固まるなど技術者としての意見が多く出されました。

また、請負事業者の白鳥林工協業組合の美谷添理事長からは、高性能林業機械の導入には資金面でも不安があったが、作業の安全と効率といった点では挑戦する価値はあると考えているといった話がされ、民間事業者でも取り組める姿を見て頂きました。

午後からは、飛騨高山森林組合が中間土場を設けてのトラック輸送の低コスト化に取り組んでいる民有林現地を見学しました。

事業地近くの一色スキー場の駐車場で中間土場に活用し、山土場から中間土場までの輸送は自社の小型トラック、各工場までの輸送は大型トラクタ等により輸送コスト削減に取り組んでいるもので、結果が期待されています。

このほか、山中山国有林の取り組みへの関心は高く、十月三十日には、高山市立荘川小学校五年生八名が森林を守る国有林の見学として、また、十月七日には新潟県糸魚川地域振興局管内の林業関係者二十名が林業先進地視察研修として、当山中山国有林の間伐の取り組みを見学されるなど、取り組みの広がりをみせており、今後さらに一円でも山主へ還元するための低コスト作業の定着「飛騨でもできた」を目指して、民有林・国有林が連携して地域の森林整備を進めていきたいと考えられています。



路網の説明をする飯村森林官

各地からのたより

元気いっぱい！の森林教室

「名古屋事務所」十一月十五日、瀬戸市立水南小学校一年生九十九名を対象に森林教室を行いました。

通常は小学校五年生を対象に森林教室を実施していますが、今回は担当の先生から「子ども達に森林の大切さを学ばせ自然のものを使ったクラフトを体験させてやりたい。」と熱心な働きかけがあり、事務所スタッフ四名が小学校へ出向き実施しました。

はじめに体育館で「森林からの贈り物」の紙芝居を行い、皆真剣な表情で紙芝居を見ていました。途中の「木でできたものは何？」との質問では溢れんばかりの大きな声で手があがり元気な声で大勢の子どもが答えてくれました。紙芝居の後には、三クラスに分かれヒノ



話に聞き入る水南小学校児童

キの輪切り板を使ったクラフト体験を行いました。

それぞれが作りたいものをイメージしながらいろいろな部材を組み合わせ、動物や花などを作りあげていました。短い時間で完成するか少し心配しましたが、子ども達の想像力には目を見張るものがありました。思い思いの作品が次々と出来上がっていました。

舞台峠国有林で体験林業

「岐阜署」十一月十七日、岐阜県下呂市の舞台峠国有林において「連合の森」の体験林業が実施されました。

「連合の森」は、森林の果たす役割や環境保全等について、学ぶとともに、現在、必要とする保育作業を体験しながら、森林とふれあい「森の大切さや手入れの重要性」について体験してもらうことを目的に、連合岐阜が主催し行っているものです。

当日は快晴のなか、七十二人（子供含む）の参加者があり、岐阜森林管理署職



枝打作業で汗を流して

員による、「地球温暖化と森林との関わり」をテーマに森林教室が行われ、その後、舞台峠国有林に移動し、枝打作業に汗を流しました。

参加者は森林教室で森林の大切さを学び、保育作業（枝打ち）で自分たちの手で雑然とした森林がみるみる明るくなっていく姿に、森の手入れの大切さを実感していました。

環境省と連携し

森林の大切さをPR

「名古屋事務所」十一月十七〜十八日の二日間、名古屋港に隣接する藤前干潟において、名古屋市と環境省が開催する「藤前干潟ふれあいデー2007」が行われました。

この催しに当所から森林の機能や重要性についてのパネル展示とDVDの放映、丸太切り体験コーナーを設置し、「美しい森林づくり」のPRを行いました。

藤前干潟は、二〇〇二年にラムサール条約に登録され渡り鳥が羽休めや越冬のために過ごす貴重な干潟となっています。

イベント当日は、天候も良く多くの人が来場し野鳥のクラフト作りやコンサートなどを楽しんでいました。当事務所が出展した丸太切り体験コーナーにも小学生や家族連れを中心にたくさんの方が訪れ、切った丸太を利用し鉛筆立てや壁飾



丸太伐りを体験して

り、コースター作りを楽しんでいました。二日間のイベントを通じ水辺の環境と森林の環境が連携し、地球全体の環境問題についてPRできたと思います。

森林の保全について学ぼう

～東海シニア自然大学～

「名古屋事務所」十一月二十二日、「東海シニア自然大学」高等部の受講生二十一名が瀬戸国有林で「森林の保全について学ぼう」というテーマで森林整備の体験作業を行いました。「東海シニア自然大学」はNPO法人「エコワークス」が主催し、自然や環境について年間三十回を学ぶ大学で、今回は、その一つとして国有林での森林整備について学びたいとの要望に応え実施しました。

午前中は、森林交流館において国有林の説明や名古屋事務所の取り組み、森林の機能と森林整備の必要性等について座学により講義を行いました。

午後からは、体験林業として間伐作業を行いました。事務所スタッフから間伐

木の伐採方法や安全対策について学んだ後、各班に分かれ作業を行いました。短い時間でしたが受講生からは、「森林整備の大変さが分かった。」「いい体験ができた。」との感想が寄せられました。



間伐作業の様子

自然の物を素材に

手作りリースに挑戦!!

(世界でたった一つの

リースを作りましょう)

「名古屋事務所」十二月二日森林交流館において第八回森林ふれあい講座を開催しました。

当日は、師走とは思えない様な暖かな日となり、二十二名の参加者は、森林から集めた蔓をベースにクリスマスリース作りに挑戦しました。

飾り付けには、マツボックリ・コウヨ



手作りリースに挑戦

ウザン・ドングリ等の球果や、南天・柘の枝葉等をふんだんに使い、個性豊かなリースを完成させました。

親子で参加された人が多く、にぎやかにあれこれ相談し、沢山の自然の物を使い豪華なリースに仕上げました。なかには、テグダマツの大きなマツボックリに驚きながら、そのマツボックリにドングリ等を使い、可愛いクリスマス用の飾りを作る子供達もいて、楽しい一時を過ごしました。

それぞれに出来上がった作品を見比べ、森林からの贈り物で作ったリースにとっても満足な様子でした。

今年度最後の「森林ふれあい講座」となりましたが、来年度も是非参加したいとの声が聞かれるなど、とても有意義な講座となりました。

マペット人形「林太郎くん」

中部局へ

「広報」中部森林管理局では、「美しい森林づくり推進国民運動」の一環としてテレビ番組を活用して、森林・自然の動きと重要性、国有林の仕事内容とその必要性・重要性を子供が見ても分かりやすい番組を制作してPRすることを目的として、テレビ信州と契約し二十六回の番組を制作してきました。

六月十三日から始まった収録も、十一月九日の南信管内での収録を最後に二十六回分全てが撮り終え、プレビューも済んだことから、このほど、テレビ信州から番組で使用したマペット人形の「林太郎くん」が送られました。林太郎人形は、三体作製され、撮影状況により使い分けていました。



送られた林太郎くん

三体は局長室、総務部長室、広報に置き、これからも国有林を見守ることとなりました。

放送は、テレビ信州で十二月三十日まで毎週日曜日の十一時四十五分から五分間番組で放送します。

人のういき

林野庁人事(抄)

十二月一日付

- ▽林野庁国有林野部業務課企画官(南木 曾支署長) 小林 伸一
- ▽木曾森林管理署南木曾支署長(東信署 次長) 小林 辰男
- ▽東信森林管理署次長(企画調整室管理 官兼国有林野管理課) 今井 道博

中部森林管理局人事

十二月一日付

- ▽企画調整室管理官兼国有林野管理課(独) 緑資源機構関東整備事務局静岡 水源林整備事務所主幹) 田丸 義次
- ▽富山森林管理署業務課管理係(富山署 神通森林事務所) 城倉 恵介
- ▽東濃森林管理署業務第二課森林育成係 兼販売係(東濃署東股森林事務所) 原田 剛克

除伐木で
「世界に一つだけ」の作品

「飛騨署」「この虫の名前は何にする?」
と聞くと、「枯れ枝チクチクムシ」と
元気な子供の返事が返って来ました。

カエデ類やシデ類の細い枝、小さな葉
やマツボックリを組み合わせただけで、
世界に一つだけの独創的な昆虫や動物が
次々に完成していきます。材料は至って
シンプルに、様々な種類の自然素材とハ
サミ、鋸、グルーガンだけ。綺麗に製材
された木材でつくるオモチャとは異な
り、自然の素材の色や質感、形をそのま
ま生かした作品づくりは、子供たちの想
像力・創作力を高め、森林へ関心を向け
るための第一歩として、大きな効果が期
待できます。

森林教室の雨天時プログラムとして、
また除伐木の有効活用の一つとして、簡
単かつ面白い木工クラフトに皆さんも挑
戦してみませんか?



世界に一つだけの作品たち



実験林・試験地等紹介

「外国樹種等展示林」

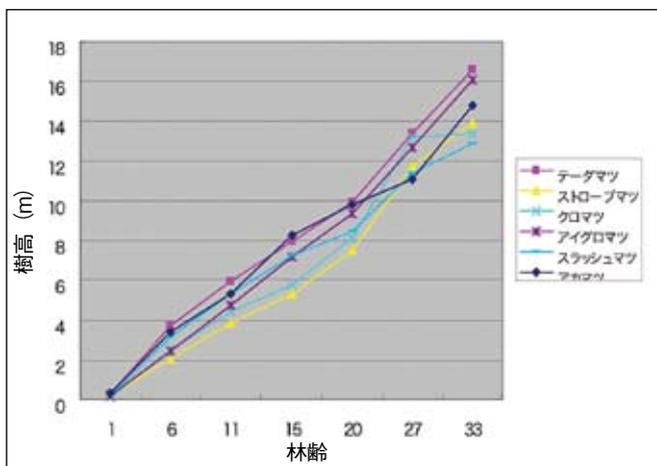


「森林技術センター」この展示林は、昭和三十九年外国産マツ等の中で生長が早いとされる樹種を植栽し、外国樹種の適合性の検討と併せて在来樹種との生長比較を行い外国樹種の導入の指標とすることを目的とした「外国樹種等実験林」として設定されました。

昭和三十八年から四十年にかけて、テーダマツ（四鉢）、スラッシュマツ（二・八一鉢）、コバノヤマハンノキ（二・〇六鉢）、アイグロマツ（〇・六三鉢）、クロマツ（二・三三鉢）、ストローブマツ（二・五六鉢）、ポプラ（〇・八七鉢）、オウシユウアカマツ（一鉢）の八種が植栽されました。

各樹種において各々〇・一鉢（二〇鉢×五〇鉢）の固定プロットを設定し、植栽後五年目までは毎年、十年以後は原則として五年毎に樹高、直径の調査を行いました。

昭和五十年（十二年生）の調査では、ポプラ、テーダマツ、スラッシュマツの生長が旺盛で、平成八年度（三十三年生）の調査では、樹高はテーダマツが一番高く、アイグロマツ、ストローブマツ



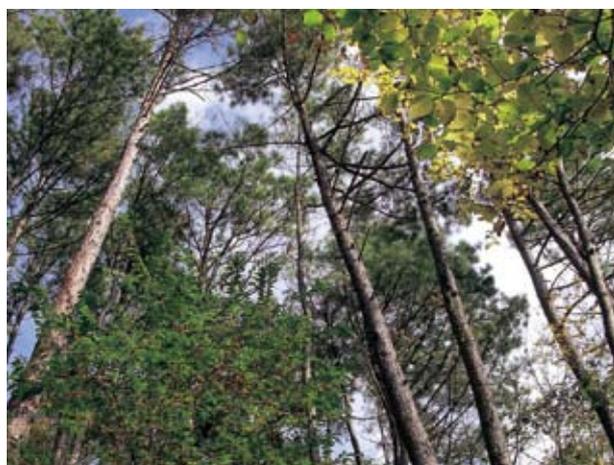
ツと続き、胸高直径もテーダマツが一番大きく、クロマツ、ストローブマツと続く結果となりました。国産種のクロマツ、アイグロマツは、初期生長は遅いものの、林齢を重ねると外国産樹種とあまり変わらない大きさになっています。また、ほぼ同じ立地条件に植栽されている当地域に適したアカマツと比較しても、樹高に大きな差は見られませんでした。

現在は、これらの外国樹種を一箇所に植栽した貴重な林分として保存し、展示林として適切に管理するため、歩道等の整備を行っています。

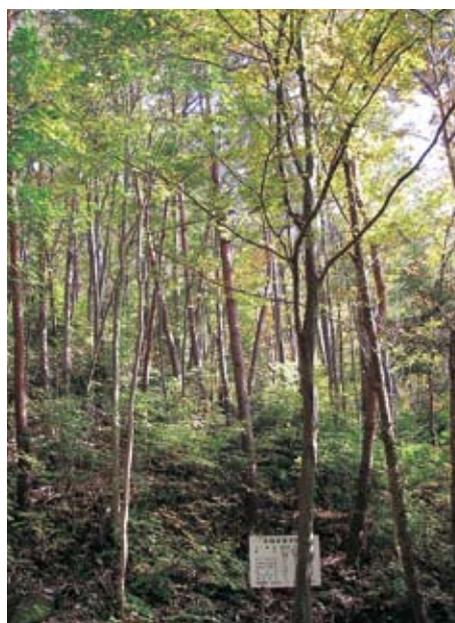
所在地：岐阜県下呂市小川 小川長洞国

有林一三一三・一に林小班

面積十七・二四鉢



スラッシュマツ



アイグロマツ

ストローブマツ

柿其溪谷

ふう けい き こう
風景紀行
 かき ぞれ
柿其溪谷
 32
 木曾森林管理署・南木曾支署
 (各署の景勝地等を紹介)

「南木曾署」長野県南木曾町の国道一九号線から木曾川に架かる柿其橋を渡り、国の重要文化財に指定されている柿其水路橋をくぐると、木曾川支流の柿其川の透きとおった流れが見えてきます。この上流一帯は、柿其溪谷と呼ばれ、木曾谷に数ある溪谷の中でも、特に美しいといわれる柿其溪谷です。

流域では、約八キロにわたって滝や瀬・淵が点在し、周囲の岸壁や、二〇〇年を優に超える木曾ヒノキなどの天然林とともに、壮大な自然の造形美を作り出しています。このため、春から秋にかけて多くの人が訪れ、春のツツジや秋の紅葉など、清冽な流れとともに楽しんでいきます。

なかでも、豪快な天然の流水プール「黒淵」、巨大な花崗岩が壮



豪快な天然の流水プールの黒淵

観な「牛ヶ滝」、展望台からの眺めがすばらしい「霧ヶ滝」などは、特に人気の高いスポットとなっています。また、林道ゲートから十五分ほど歩いた所では、カエデの仲間の「ハナノキ」の大本木も見ることが出来ます。「ハナノキ」は、長野県、岐阜県、愛知県の限られた地域のみで生育し、絶滅危惧種に指定されており、南木曾支署管内の国有林でも、大きな木は二本しか残っていません。木曾にお越しの際には、少し寄り道されて、リフレッシュされてはいかがでしょうか。



巨大な花崗岩が壮観な牛ヶ滝



展望台からながめるエメラルド色の淵、眺めのすばらしい霧ヶ滝

アクセス

公共交通機関を利用した場合

J R 中央西線十二兼駅下車 徒歩50分

J R 中央西線南木曾駅下車 タクシー10分

自動車を利用した場合

中央自動車道中津川 I. C. より塩尻方面へ40分

長野自動車道塩尻 I. C. より中津川方面へ1時間30分